

コロナ禍を経て重点的に進める具体的施策について

コロナ禍を経ての3つの「気づき」

・県外の農畜水産物に依存する「幸せ」の危うさ ・「人」の繋がりの大切さ ・滋賀の農山漁村が「近くにある」ことの価値・魅力

① 地域自給力の向上

経済・1

- ・スマート農業の導入、琵琶湖漁業のICT化の検討
- ・農業法人等への就職者の定着推進
- ・生産性の高い大規模施設園芸の導入による新たな農業経営の確立

経済・2

- ・用途や品種毎の需要の動向(変化)に柔軟に対応する米づくりの促進
- ・国産需要が見込める麦・大豆、非主食用米の本作化
- ・パン用をはじめ麺用(うどん、ラーメン)、もち麦等の新たな用途に適する麦品種の選定と普及
- ・契約栽培を中心とした加工用野菜産地の育成、水田果樹の展開
- ・オーガニックなどの特徴あるお茶の生産拡大
- ・生産性の高い大規模施設園芸の導入による新たな農業経営の確立
- ・大規模花き生産者の育成による安定した花き供給体制の確立
- ・オーガニック近江米の省力安定生産技術の拡大
- ・海外マーケットに対応した輸出用米の生産(主食用米、醸造用米)

環境・1

- ・環境負荷をさらに削減できる技術開発とその普及
- ・堆肥のペレット化等、堆肥の広域流通の取組の推進

② 農業・農村への誘導

人・1

- ・学校給食、食育、農業・漁業体験、農業・漁業に関する情報発信

人・2

- ・多様な主体との連携・協働による農村地域の活性化の推進
- ・都市的領域と農村領域が近接する滋賀ならではの特性を生かした「新規半農半X」の確保・育成

人・3

- ・就農希望者に対する就農・就職等に関する情報提供や相談活動、就農準備への支援
- ・農業法人等への就職を促進するためのマッチング機会の充実
- ・しがの漁業技術研修センターの開設、就業相談

人・5

- ・都市的領域と農村領域が近接する滋賀ならではの特性を生かした農業・農作業の持つ福祉機能に着目した取組への県民の参加促進
- ・定年退職後の働きたいシニアの力を活用した福祉事業所等と農業者とのマッチング制度の構築

社会

- ・5Gなどの通信環境の整備、スマート農業等を活用した農地・水路等の保全に係る省力化技術の導入
- ・中山間地域に特化したスマート農業新技術の推進
- ・兼業農家、小農など、「既存の半農半X」を活用した農業・農村の維持・活性化

③ 県産農畜水産物の消費拡大

人・2

- ・近江米や県産園芸品目の消費場面における魅力発信や新たな利活用の提案によるファン拡大
- ・通販や宅配などによる販売方法の複合化の推進
- ・物流拠点や食料安定供給拠点等としての直売所の機能強化
- ・観光農園や農業体験などのサービス提供による消費者との接点強化による直売所等の活性化
- ・クラウドファンディング等の活用による県産農畜水産物のファン拡大

人・4

- ・「おいしがうれしが」キャンペーンによる地産地消推進事業者の拡大と取組の活性化
- ・地域からの漁獲状況の発信や一元集出荷等による事業者とのマッチング
- ・市場等における事業継続計画作成の推進などによる食品の安定流通の確保